

## 1 吉賀高校をアーカイブする意味

普通科高校の教育の問い直しという観点から高校魅力化を考える必要がある。二度のベビーブーム期の量的拡大と個性化・多様化、そしてその後の量的縮小と特色化・魅力化を経て、普通科高校の意義・使命、方法が混迷している。

各高校の高校魅力化のきっかけは地方郡部の普通科高校の統廃合回避であることは間違いない。しかし、県政への陳情や生徒への補助金支出では一時的に存続できても生徒は増えないし、生徒の高校生活は輝きを増さない。

隠岐島前高校の高校魅力化がスタートしたとき、隠岐島前高校は自分たちが存続するためには、高校が魅力的になることが大切だと気づいた。しかし、魅力的になるとはどういうことかは当時もそして今に至っても答えは与えられていない。普通科高校改革の観点から重要であると思われるのは、隠岐島前高校を始め島根県の高校魅力化の原8校（スタート時に参加した8校）が、自分たちの普通科教育を問い直し続けていることである。

かつて、普通科教育が完成教育なのか進学準備教育なのか議論となったことがある。普通科教育は仮に後者の進学準備教育であったとしても出口教育ではない。職業教育であったとしても出口教育ではない。また、特色のある教育であったとしても専門教育ではない。それでは普通科教育とはいったい、どんな教育なのだろうか。吉賀高校の普通科教育の問い直しの結果は、結果だけを見ると奇しくも一九四八年の新制

# 吉賀高校調査について

高校発足時の地域と共にある普通高校という理念への先祖返りと見なすことができるものであった。

『地域人材育成研究』第5号は、吉賀高校はどのような経緯で問い直しを行うに至ったか、どのように問い直したか、問い直しの結果、どのような地域と共にある普通科高校となったかを高校魅力化スタート以降の五代の校長の時代に焦点を当て記録した。

## 2 調査概要

地域人材育成研究会と吉賀高校との交流の歴史は古い。研究会メンバーは二〇一三年から吉賀高校や吉賀町を度々訪問している。また、二〇一四年からは研究会メンバーが所属する大学の学生と吉賀高校の生徒の交流事業が行われている。二〇一六年度には吉賀高校の歴代卒業生約四〇名に対する聞き取り調査を行っている。

吉賀高校関係者への聞き取り調査は、二〇二〇年二月一日～二月一五日、および二月二七日に吉賀高校および、吉賀町役場、吉賀町体育館、カフェ「草の庭」で半構造化されたインタビュー法を用いて行われた。インタビューアは地域人材育成研究会のメンバーである、青山学院大学・樋田大二郎、法政大学・寺崎里水、青山学院大学・大木由衣、日本女子大学・樋田有一郎が担当した。在校生四名への集団聞き取り調査は、吉賀高校教員同席のもとで行われた。

聞き取り内容はICレコーダーに録音して文字起こしを行い、インタビュー対象者に文字起こししたスクリプトの確認と修正を行っていただいている。

調査対象者は以下である【インタビュー実施順】

二〇二〇年二月一三日

吉賀高校第二二代校長・渡部敏郎先生

二月一四日

吉賀高校生徒四名、吉賀高校教諭・中村美楠子先生、吉賀高校第一九代校長・齋藤雅典先生、吉賀町副町長・赤松寿志氏、エコビレッジかきのきむら・井川保氏、吉賀高校コーディネーター・坂田紀之氏

二月一五日  
吉賀町役場職員・増本健治氏、吉賀高校主幹教諭（高校魅力化担当）・河井俊彦先生、吉賀高校卒業生二名

二月一六日  
吉賀高校第二〇代校長・熊谷修山先生

二月二七日  
吉賀高校教諭・岡崎真弓先生、カフェ「草の庭」オーナー・花崎訓恵さん

その他（二〇二三年三月一四日）  
第一八代校長・太田肇先生 ※第5号ではいただいた資料を利用している。